

受 検 番 号	氏 名

1 建二

令和 7 年度

1 級建築施工管理技術検定

第二次検定問題

令和 7 年 10 月 19 日(日)

[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて 16 ページです。
2. 試験時間は、13 時から 16 時です。
3. 解答用紙は、別紙（両面）になっています。
4. 試験問題は、6 問題です。
5. 問題 1 から問題 4 は、記述式です。
 解答は、解答用紙の定められた範囲内に、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
6. 問題 5 及び問題 6 は、五肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
 解答の記入に当たっては、次によってください。
 イ. 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。ボールペン、サインペン、色鉛筆等では採点されません。
 ロ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
7. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
8. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
9. 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
10. この問題用紙は、試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
 途中退席する場合は、持ち帰りできません。

マークの塗りつぶし例 ●

問題 1

建築工事の施工者は、設計図書等により工事目的物に要求される品質を把握し、品質管理を的確に行うことが求められる。

建築工事の現場を管理していくうえでのあなたの考えについて、今日までの経験を踏まえ、次の1.及び2.の問いに答えなさい。

なお、建築工事には、建築設備工事は含まれないものとする。

1. 右の工事概要に示す事務所ビル新築工事で行われる工種又は作業において、あなたが統括的な施工の技術上の管理を求められる立場として工事を担当するうえで、品質管理上特に重点を置くべきと考える項目を3つあげ、それぞれ次の①から③について具体的に記述しなさい。

ただし、3つの項目の②及び③はすべて異なる内容を記述するものとする。

なお、工事概要に示す工事において、各作業は一般的な手順に従って施工されるものとし、施工上必要としない工事及び作業に関する内容についての記述は不可とする。

① 工種名又は作業名等

② 特に重点を置くべきと考える品質管理項目及びその品質管理項目について重点を置くべきと考える理由

③ ②の品質管理項目を管理していくうえで実施すべき内容

2. 右に示す工事概要の建築工事に係わらず、現場で行う組織的な品質管理活動について、次の①及び②を具体的に記述しなさい。

ただし、1.の③と同じ内容の記述は不可とする。

① 品質管理活動の内容及びそれを協力会社等に伝達する手段又は方法

② ①の品質管理活動によってもたらされる良い影響

工事概要

(表中「○+△+□」は、○下地のうえ△面に□仕上げ等、下地と表面仕上げの関係を示す。)
(EP：合成樹脂エマルジョンペイント、SOP：合成樹脂調合ペイント)

工事名		事務所ビル新築工事	
主要構造		鉄骨構造 地上 7 階建て 塔屋 1 階	工期 2025 年 2 月から 2026 年 9 月
主要用途		事務所	設備基礎：コンクリート立上り基礎 外周部：目隠しルーバー
用途地域		商業地域 15 m 道路隣接	
面積	敷地面積 1,110.0 m ²		最高高さ 30.5 m
	建築面積 800.0 m ²		階高 3.8 m
	延べ面積 5,720.0 m ²		エレベーター 乗用 11 人乗り 2 台
主な構造仕様			
根切深さ		設計 GL-3.0 m	構造部材 柱：角形鋼管，梁：H 形鋼 床：合成デッキスラブ
地下水位深さ		設計 GL-3.6 m	
山留め		鋼矢板（シートパイル）壁工法	耐火被覆 耐火材巻付け工法
基礎		既製コンクリート杭（PHC 杭）	
主な外部仕上げ			
屋上	陸屋根	アスファルト保護断熱防水 アルミ製笠木，ステンレス製丸環	建具 エントランス ステンレス製自動扉， 強化ガラス＋飛散防止フィルム共 アルミ製サッシ，複層ガラス共 一部排煙窓
	外壁	主な外壁 目地 断熱	
主な内部仕上げ（天井高さ 2.9 m 壁及び天井の下地はすべて軽量鉄骨とする。）			
床	事務室	コンクリート直均し＋セルフレベリング ＋防塵塗装＋OAフロア＋タイルカーペット	天井 壁 エントランス ホール 事務室 廊下 給湯室 階段室 エントランス ホール
	廊下	モルタル下地＋タイルカーペット	
	給湯室	モルタル下地＋長尺ビニル床シート	
	階段室	モルタル下地＋タイルカーペット， ステンレス製ノンスリップ	
	エントランス ホール	モルタル下地 ＋花崗岩ジェットバーナー仕上げ	
壁	事務室	せっこうボード＋EP 塗装	その他 事務室 給湯室 化粧室
	廊下	けい酸カルシウム板＋化粧シート	
	給湯室	せっこうボード＋EP 塗装	
	階段室		
主な外構仕様			
構内舗装	駐車場	アスファルト舗装 普通車 8 台	囲障他 敷地境界 アルミ製化粧フェンス 中木，低木混栽
	アプローチ	インターロッキング舗装	

問題2

建築工事における次の1. から3. の仮設物の設置を計画するに当たり、検討すべき事項及びその理由を、それぞれ2つ具体的に記述しなさい。

ただし、1. から3. の解答はすべて異なる内容の記述とし、申請手続、届出及び仮設物設置後の運用管理に関する記述は除くものとする。

また、使用資機材に不良品はないものとする。

1. 仮設ゴンドラ
2. 起伏式（ジブ）タワークレーン
3. 枠組足場を用いた棚足場

問題3

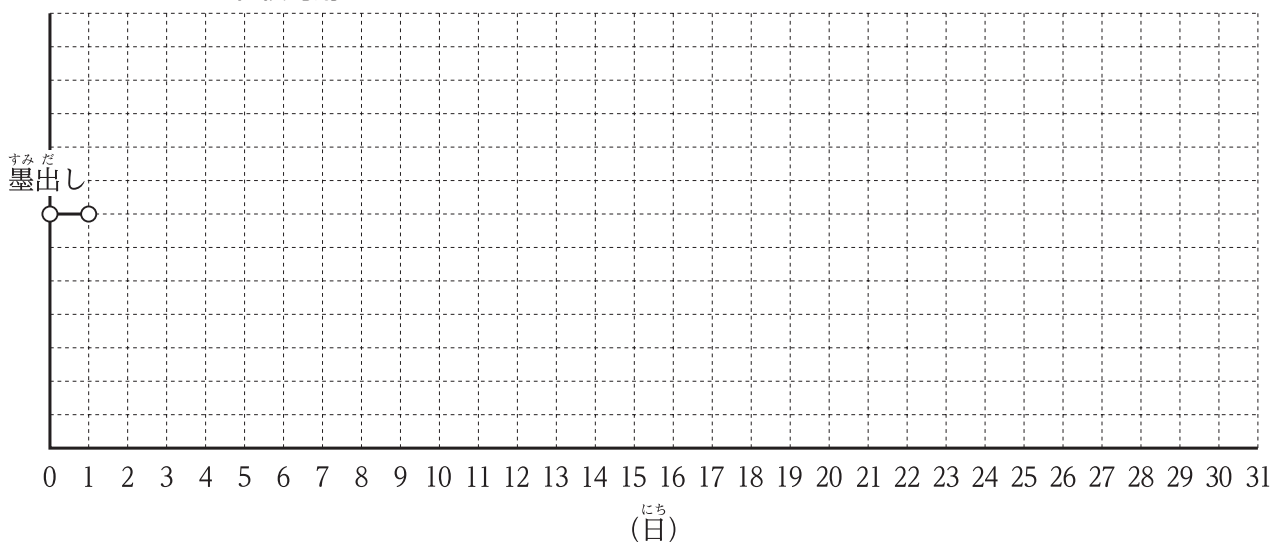
鉄筋コンクリート構造の事務所ビル新築工事における基準階の躯体工事について、右の工事概要、工程表及び作業と施工条件を読み取り、次の1. から4. の問いに答えなさい。

工程表は計画時点におけるもので、作業⑦については作業内容を記載していない。

なお、各作業は躯体工事における建築工事と設備工事の一般的な施工手順に従って施工されるものとし、施工中に必要な試験や検査については記載を省略している。

- 作業⑦の作業内容を記述しなさい。
- 工程表及び作業と施工条件から、⑧から⑨までの総所要日数を記入しなさい。
- 作業③の最早開始時期（EST）及び最遅開始時期（LST）を記入しなさい。
- 作業④のトータルフロート及び作業⑧のフリーフロートを記入しなさい。

ネットワーク工程検討用

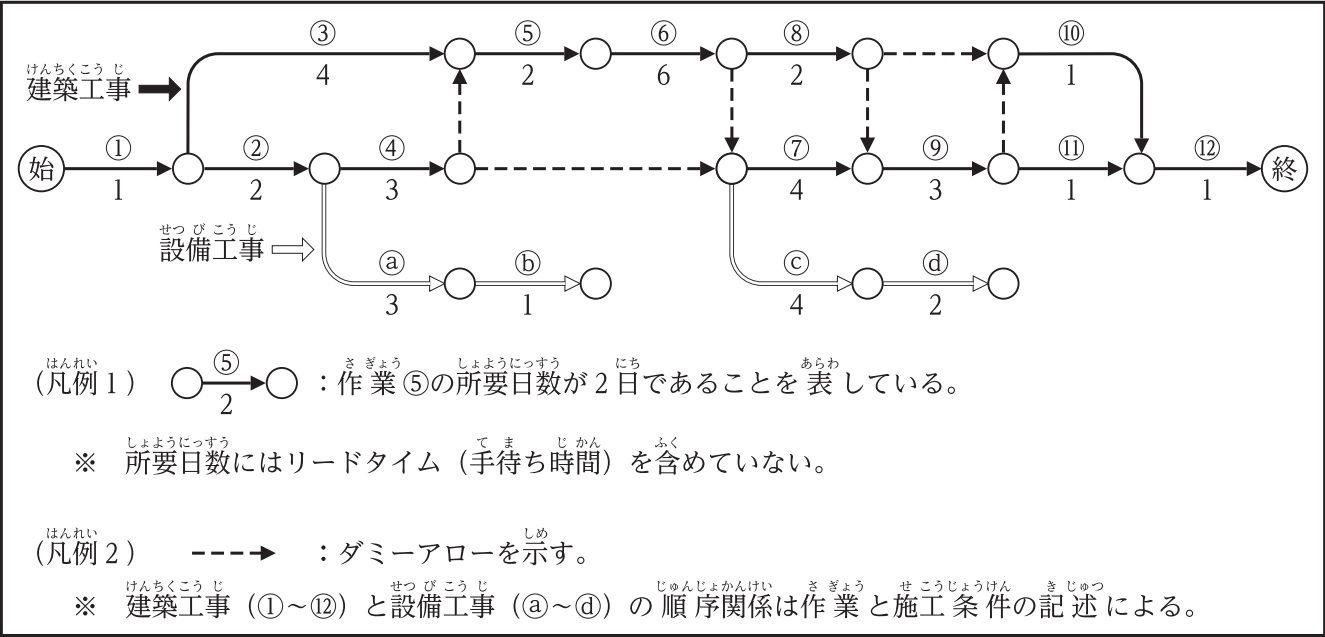


工事概要

用途：事務所

構造、規模：鉄筋コンクリート構造 地上6階建て、基準階の床面積480.0㎡

工程表



作業と施工条件（所要日数には各作業に必要な資機材運搬等を含む）

	作業	作業内容	所要 日数	施工条件
建築工事	①	すみだ 墨出し	1日	
	②	はしらはいきん 柱配筋（圧接共）	2日	
	③	はしら かべ 柱、壁の型枠建込み	4日	作業②柱配筋開始1日後に着手
	④	かべはいきん 壁配筋	3日	
	⑤	はしら かべ かたわくかえ 柱、壁の型枠返し	2日	作業⑥壁の配管、スリーブ取付け完了後に着手
	⑥	はり かたわくくみ た 梁、スラブ型枠組立て（階段を含む）	6日	
	⑦		4日	
	⑧	てんじょう 天井インサート、型枠締め	2日	
	⑨	はいきん かいだん スラブ配筋（階段を含む）	3日	
	⑩	かいだんふさ だん さ かたわく 階段塞ぎ、段差型枠	1日	
	⑪	さしきん 差筋	1日	
	⑫	うちこ コンクリート打込み	1日	作業④スラブ配管、スリーブ取付け完了後に着手
設備工事	a	はしらおよ かべ はいかん 柱及び壁の配管、スリーブ取付け	3日	作業②柱配筋完了後に着手
	b	かべ はいかん 壁の配管、スリーブ取付け	1日	作業aとは別に、作業④壁配筋完了後に着手
	c	てんじょう はり 天井インサート、梁スリーブ取付け	4日	
	d	はいかん スラブ配管、スリーブ取付け	2日	作業⑨スラブ配筋開始2日後に着手

問題 4

次の 1. から 4. の問いに答えなさい。

ただし、1. から 4. の解答はすべて異なる内容の記述とし、気象条件による作業の中止及び保護具の使用に関する記述は除くものとする。

1. 場所打ちコンクリート杭地業のアースドリル工法において、スライム処理又は安定液についての施工上の留意事項を 2 つ、具体的に記述しなさい。
2. コンクリート工事の打込み時において、コールドジョイントの発生を防止するための施工上の留意事項を 2 つ、具体的に記述しなさい。
3. 鉄骨工事の耐火被覆において、吹付けロックウール工法の施工上の留意事項を 2 つ、具体的に記述しなさい。
4. 鉄筋コンクリート構造の建物の解体において、外周部を転倒工法で解体する場合の施工上の留意事項を 2 つ、具体的に記述しなさい。

問題 5

次の 1. から 8. の各記述において、 に当てはまる最も適切な語句又は数値の組合せを、下の枠内から 1 つ選びなさい。

1. アスファルト防水の保護防水密着工法において、平場部と立上り部で構成する出隅部及び入隅部は、平場部のルーフィング類の張付けに先立ち、幅 mm 程度のストレッチルーフィングを増張りする。

コンクリート打継ぎ部は、平場部のルーフィング類の張付けに先立ち、幅 50 mm 程度の 用テープを張り付けた上に、幅 mm 程度のストレッチルーフィングを増張りする。

プレキャストコンクリート部材の継手目地部は、平場部のルーフィング類の張付けに先立ち、ストレッチルーフィングを両側のプレキャストコンクリート部材にそれぞれ mm 程度張り掛けて、 増張りをする。

	a	b	c
①	200	補強	50
②	300	補強	100
③	300	絶縁	50
④	300	絶縁	100
⑤	200	補強	100

2. セメントモルタルによるタイル張りにおいて、まぐさ、底先端下部など剥落のおそれ大きい箇所に タイル以上の大きさのタイルを張る場合、径が 0.6 mm 以上のなまし 線を剥落防止用引金物として張付けモルタルに塗り込む。

必要に応じて、受木を添えて 時間以上支持する。

	a	b	c
①	小口平	ステンレス鋼	12
②	小口平	ステンレス鋼	24
③	50 二丁	鉄	24
④	50 二丁	ステンレス鋼	12
⑤	50 二丁	鉄	12

3. 金属板葺きによる屋根工事の下葺きに使用するアスファルトルーフィングは、軒先から水上側へ葺き進め、縦重ねは 100 mm 以上、横重ねは mm 以上とする。
- 仮留めを行う場合のステープルの打込み間隔は、下葺き材の重ね部分で mm 程度とし、その他の部分では mm 以内とし、ルーフィングのたるみやしわを生じないように葺く。

	a	b	c
①	200	450	900
②	100	300	600
③	200	300	900
④	100	450	900
⑤	200	300	600

4. 屋内の軽量鉄骨天井下地の吊りボルトの間隔は 900 mm 程度とし、周辺部は端から mm 以内とする。
- 野縁の間隔は、下地張りのある場合 mm 程度とし、ボードの一边の長さが 450 mm 程度以下の場合の直張りは mm 程度以下とする。

	a	b	c
①	200	300	150
②	150	360	150
③	150	360	225
④	150	300	225
⑤	200	300	225

5. 防水形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材（防水形複層塗材 E）仕上げとする場合、下地のセメントモルタル面を 仕上げとする。
- 主材の基層塗りは、2 回塗りで kg/m² とし、だれ、ピンホール及び塗残しのないように下地を覆うように塗り付ける。
- 主材の模様塗りは、1 回塗りで 0.9 kg/m² とし、見本と同様の模様で均一に仕上がるように塗り付ける。
- 上塗材は、 回塗りで 0.3 kg/m² とし、色むら、だれ、光沢むらの発生のないように均一に塗り付ける。

	a	b	c
①	木ごて	1.5	1
②	金ごて	1.7	1
③	木ごて	1.7	2
④	金ごて	1.5	2
⑤	金ごて	1.7	2

6. 防火区画に用いる防煙シャッターは、表面がフラットでガイドレール内での遮煙性を確保できる 形のスラットが用いられる。
- の遮煙機構は、シャッターが閉鎖したときに漏煙を抑制する構造で、その材料は不燃材料、準不燃材料又は難燃材料とする。
- スラットとガイドレールのかみ合わせ長さは、シャッターの内法寸法が 3 m 以下の場合、左右かみ合わせ長さの合計は、 mm 以上とする。

	a	b	c
①	オーバーラッピング	まぐさ	80
②	オーバーラッピング	方 立	80
③	インターロッキング	まぐさ	90
④	インターロッキング	方 立	80
⑤	オーバーラッピング	まぐさ	90

7. 塗装工事における研磨紙ずりは、素地の汚れや錆、下地に付着している塵埃を取り除いて素地や下地の表面を清浄で 状態とし、かつ、次工程で適用する塗装材料の を確保するための足掛かりをつくり、仕上りを良くするために行う。

研磨紙ずりは、 塗膜及びパテが十分乾燥した後に行い、塗膜を過度に研がないようにする。

	a	b	c
①	粗面	付着性	下層
②	平滑	付着性	下層
③	粗面	美装性	上層
④	平滑	付着性	上層
⑤	粗面	美装性	下層

8. 内装工事において軽量鉄骨下地にせっこうボードを取り付ける場合、下地の裏面に mm 以上の余長が得られる長さのドリリングタッピンねじを用いる。

その留付け間隔は、天井では、周辺部 150 mm、中間部 200 mm、壁では、周辺部 mm、中間部 300 mm とし、いずれもボード周辺部から 10 mm 程度内側の位置で留め付け、ねじの頭がボードの ように確実に締め込む。

	a	b	c
①	10	200	表面より少しへこむ
②	5	250	表面と同面となる
③	5	200	表面より少しへこむ
④	10	200	表面と同面となる
⑤	10	250	表面より少しへこむ

問題 6

次の 1. から 3. の各法文において、 に当てはまる正しい語句を、下の該当する枠内から 1 つ選びなさい。

1. 建設業法（施工技術の確保に関する建設業者等の責務）

第 25 条の 27 建設業者は、建設工事の担い手の ① および確保その他の施工技術の確保に努めなければならない。

2 （略）

3 建設工事に従事する者は、建設工事を適正に ② するために必要な知識及び技術又は技能の向上に努めなければならない。

4 （略）

①	① 参入	② 入職	③ 訓練	④ 指導	⑤ 育成
---	------	------	------	------	------

②	① 管理	② 計画	③ 実施	④ 着手	⑤ 完成
---	------	------	------	------	------

2. 建築基準法施行令（根切り工事，山留め工事等を行う場合の危害の防止）

第136条の3 建築工事等において根切り工事，山留め工事，ウェル工事，ケーソン工事その他基礎工事を行なう場合においては，あらかじめ，地下に埋設されたガス管，ケーブル，水道管及び下水道管の損壊による危害の発生を防止するための措置を講じなければならない。

2 建築工事等における地階の根切り工事その他の深い根切り工事（これに伴う山留め工事を含む。）は，③ による地層及び地下水の状況に応じて作成した施工図に基づいて行なわなければならない。

3 建築工事等において建築物その他の工作物に近接して根切り工事その他土地の掘削を行なう場合においては，当該工作物の基礎又は地盤を補強して構造耐力の低下を防止し，④ を避ける等その傾斜又は倒壊による危害の発生を防止するための措置を講じなければならない。

4 （略）

5 （略）

6 （略）

③	① 測 量	② 地盤調査	③ 物理探査
	④ 土質試験	⑤ 標準貫入試験	

④	① 急激な排水	② 急激な湧水	③ 地盤の変形
	④ 地盤の崩壊	⑤ 地盤の沈下	

3. 労働安全衛生法（特定元方事業者等の講ずべき措置）

第30条 特定元方事業者は、その労働者及び関係請負人の労働者の作業が同一の場所において行われることによって生ずる ⑤ 災害を防止するため、次の事項に関する必要な措置を講じなければならない。

一 協議組織の設置及び運営を行うこと。

二 作業間の連絡及び調整を行うこと。

三 作業場所を巡視すること。

四 関係請負人が行う労働者の安全又は衛生のための教育に対する指導及び ⑥ を行うこと。

五 （略）

六 （略）

2 （略）

3 （略）

4 （略）

⑤	① 事故	② 重大	③ 特定	④ 労働	⑤ 公衆
---	------	------	------	------	------

⑥	① 支援	② 援助	③ 評価	④ 改善	⑤ 監督
---	------	------	------	------	------

令和7年度 1級建築施工管理技術検定 第二次検定

五肢択一式問題の正答肢

問題5	問題No.	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
	正答肢	4	2	3	3	5	5	2	1

問題6	問題No.	1.		2.		3.	
		①	②	③	④	⑤	⑥
	正答肢	5	3	2	1	4	2

解答の公表範囲

- 第二次検定は、問題の解答形式がマークシートとなっている設問の正答肢番号を公表します。

なお、解答形式が記述式の設問の正答は公表しません。